



NUAPRESS 2016 no.23



祝・NUAPRESSが カラーになりました!

前号まで2色刷りだったこのNUAPRESSですが、ついにフルカラーになりました。巻頭の写真は、同窓会で5月に後援したイベント「UMACTION2016」の様子です。パフォーマーとして騎乗しているのは28期彫刻卒の森部英司さん。OB・OG2016展の開催に先駆けて行われたこのパフォーマンスは、大学に馬のジュリア(アングロアラブ種)をお招きして初の試み。このイベントを含め、展覧会の様子をレポートします。――

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会

OB・OG展 2016



本年も「OB・OG展2016」が開催されました。長田文実香さん(28期洋画卒)、森部栄司さん(28期彫刻卒)、菅沼朋香さん(35期デザイン卒)、吉田めぐみさん(37期デザイン卒)4名による熱意あふれる作品が展示されました。また関連イベントとして5月18日に、森部さんによる《UMACTION 2016》を、西キャンパス南側広場(通称クローバー畑)にて行いました。馬との共同作業=騎乗しながらペインティングを行う

という実験的な作品で、多くのギャラリーが集まる中開催されました。

初日は、ギャラリートークを行い、出品アーティストの方々から作品や制作活動について、直接お話を聞く機会を設けました。第1回目からお話ししている「在校生の皆さんにできることは何か」というミッションを、こうした形で実践してきました。開催時間が授業時間帯ということもありましたが、多くの在校生の皆さんにお集

まりいただき、引き続き行われたパーティでも、卒業生との交流を楽しんでくださっているようでした。

本展の開催にあたり、ご協力ならびにご支援をいただきました関係者各位、同窓生の皆様には、誌面を借りて厚く御礼申し上げます。

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会

会長 中島弘敬

☆長田文実香 FUMIKAosada

美術学部洋画コース28期(2001年)卒業。
愛知県文連美術展審査員。春陽会会員。日本美術家連盟会員。
主な個展=三井海上名古屋ギャラリー(2000年、名古屋)、東桜会館ギャラリー(2010年、名古屋)。

主な受賞=1997年中部春陽年展。初入選。半田市美術展【市長賞】('98年も受賞)／1998年第75回春陽展初入選(東京都美)。愛知県文連美術展【入賞】／2002年第79回春陽展にて春陽会会友推举。利根山光人記念大賞展ビエンナーレ・きたかみ展【入賞】／'03年・'04年・'05年愛知県文連美術展【特選賞】／中部春陽展2002年展【FM愛知賞】／中部春陽展2003年展【奨励賞】同人推举／第81回・第82回・第84回・第87回春陽展賞候補／2007年第1回女の仕事展[グループ展]以降今年5月、第7回開催年／2015年第92回春陽展【奨励賞】('06年第83回・'11年第88回・'13年第90回にも受賞)春陽会会員推举



上=出産後に制作された一連の作品。どれもタイトルに《誕生》《生命》といったような名が付けられている。長田さんはアーティストトークには残念ながら参加できなかったけれど云く、「個展以降、大きな作品を一度に展示できる機会が無かったので大変嬉しい。自分を振り返り、また皆さんにこうして観ていただいて、これからも新しい表現を模索ていきたい。」とコメント。

右=作品部分。何層もの色が塗り重ねられ、奥行きのある空間が生まれる。



☆菅沼朋香 TOMOKAsuganuma

デザイン学部デザイン学科メディアデザイン
コース35期(2008年)卒業。

現在、東京芸術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻在学中。

主な個展=2012年「バットトウザ昭和」(円頓寺商店街 喫茶まつば, 愛知)

主なグループ展=2008年名古屋芸術大学卒業制作展(愛知芸術文化センター, 愛知)/ブライトン大学3等賞受賞/2012年名古屋芸術大学メディア系シリーズ展示7(アートラボあいち)/2013年あいちトリエンナーレ2013(長者町会場)、アーツチャレンジ2013(愛知芸術文化センター)/2015年中之条ビエンナーレ2015(旧喫茶琥珀, 群馬)、醤油芸術研究所2015(讃岐醤油画資料館, 香川)

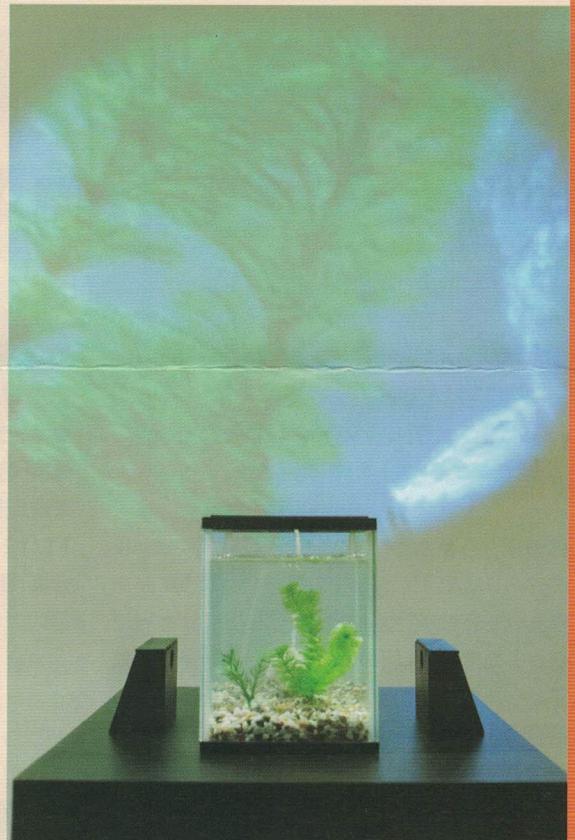
右上段=菅沼さんの作品展示会場風景/『昭和』をテーマに作られたストーリーブック。昭和らしい場所を菅沼さんご本人が取材しながら、彼女の中の昭和ストーリーを新たに紡いでゆく。右下=作品を語るご本人。



☆吉田めぐみ MEGUMIyoshida

デザイン学部デザイン学科メディアデザイン
コース37期(2010年)卒業後、情報科学芸術
大学大学院(IAMAS)にてメディアアートにつ
いて学ぶ。その後、本校メディアデザインコース
で助手をする傍らフリーランスで映像制作・
デザイナーとしても活動し、現在は、名古屋大
学共感工学ラボにてクリエイティブ・アソシエ
イトとして、デザイン思考を使ったワーク
ショップやイベントの企画・運営をしている。

主なグループ展=2012年『D/A | 複合体』展
(GALLERY 9 kyoto)/2013年IAMAS 2013
(ソフトピアジャパン・センタービル)/2014
年名古屋芸術大学大学デザイン学部『助手
展』(名古屋芸術大学 アート&デザインセン
ター)/2015年大名古屋電腦博覧会2015(名
古屋市民ギャラリー矢田)



左及び右上=作品《金魚の見た夢》。水槽に泳ぎ回っている金魚(実際水の中には水草だけが浮いている)の視界をシュミレーションした映像インスタレーション作品。金魚が水槽から見ている風景がリアルタイムに壁面へ映し出され、その存在を意識させる。

左下=アーティストトークに参加してくださった吉田さん。

森部英司さん 彫刻科 28期卒

——今回、継続して制作を続けているUMACTIONをパフォーマンスとして発表する。このUMACTIONという作品は馬との共同制作そのものを作り、ペインティングとしても発表してきた。

馬の事はそれなりにわかっているとは思うが、決してたぐいまれな馬術センスがある訳ではない、ただがむしゃらに美術と馬術の狭間でもがき制作する事で、作品を生み出している。その興味は、馬が人の為に荷を運び文化を運び思想を運び、私を含む果てしない人間の歴史に深く関係をもった生き物であることの重要性にある。馬の手を借り人が作り上げてきた物自体がなんのかを問い合わせ、このまま人類はどこに向かい文化を深めるのか?美術を理由に私は馬へ関係を仕掛け、先行き不透明な雑音の空間に向かって馬と一緒に色を投じる。

上記のテキストは展覧会に先立ち、イベント《UMACTION2016》として、騎乗によるペインティングパフォーマンスを行った森部さんが用意したリリースに書かれたものです。今回制作した作品は、OB・OG展にも展示されました。これらを終えて、ご本人にお話を伺いました。

段展覧会を行うのとはまた違う種類のプレッシャーがあるので、神経を使います。何より生き物相手ですので、良くも悪くも想像を越えることが起きます。今回に至っては、リハの最中に馬と共に横転するトラブルがあり、それによってパフォーマンスの内容も変更する事になりました。それもまた馬と言う異種を扱う事での難しさが新たな課題を自分にもたらします。その部分が面白くもあるのですが、寿命は縮まります。ただこれを繰り返す事で、馬の目線に少し近づいている気がしています。最近は馬の背に立ち上がり騎乗し、馬との接点を少なくする事で、より直感的な領域で繋がろうと試みています。

——11月に行われる予定の、明治神宮外苑の聖徳記念絵画館でのギャラリートークについて教えてください。

日本にとって大きな分岐点だった明治時代その歴史を絵画として保存する聖徳記念絵画館。所蔵した私自身の作品と、馬を使った制作活動の話から、馬の歴史、明治の時代に馬が担ってきた事などをトークの中心に置きながら明治の馬に迫る事が出来ればと思っています。



もりべえいじ／1978年愛知県に生まれる。名古屋芸術大学(彫刻科)を卒業。イギリスの交換留学後、イタリアローマに滞在【作家アシスタント】、帰国後、2001年より御殿場の乗馬クラブに勤務。主にインストラクター・調教・企画の仕事に5年間携わる。2002年より馬や馬具をモチーフに作品を作り始め、実際の馬を使ったアートパフォーマンスやインスタレーションベースに絵画やオブジェの制作を開始。現在は、全国の馬の取材を行いながら人と馬との関わりから現れる歴史や文化を多視点でとらえ制作を行っている。

主な個展

- 2012年 TWS-Emerging 180「Production ranch」
Tokyo Wonder Site hongo、東京
- 2013年 -Brand Drawing- EIJI MORIBE UMAZURA
展(松坂屋名古屋 美術画廊、愛知)
- 2013年 ALAProject(アートラボあいち、愛知)
- 2013年 森部英司展—馬に乗り、色が乗る—(馬の博物館、神奈川 横浜)
- 2013年 EIJI MORIBE Exhibition(Cafe ajara、岐阜)
- 2014年 flying bucket (florist gallery N、愛知)
- 2015年 the origin of breeds (florist gallery N、愛知)

受賞

- 2008年 トキヨーワンダーウォール2008 入選
- 2010年 トキヨーワンダーシード2010 入選
- 2011年 トキヨーワンダーウォール2011 審査員長賞
- 2011年 Dアートビエンナーレ 入選

パブリックコレクション
財団法人 馬事文化財団 馬の博物館
明治神宮 聖徳記念絵画館

ワークショップ

- 2014年 馬と子供のUMAGOYA(揖斐幼稚園、岐阜)



◆ギャラリートーク第5回

対談「明治の馬－聖徳記念絵画館の馬たち－」

末崎真澄(馬の博物館副館長)×森部英司(画家)

11/12(土) 14:00～15:30

会場=明治神宮外苑 聖徳記念絵画館 研修室

(詳しくは会場HPをご覧ください。)

—《UMACTION2016》、そして展覧会を終えて、反響などありましたでしょうか?

各方面から色々なアクションがありました。以前からUMACTIONを生で見たいと言う声がありましたが、名古屋で開催出来た事は本当に良かったです。今回の為に遠方からも見に来て下さった方もいらっしゃり、特に感じたのは美術展覧会などに足を運んでいる方々、またそれ以外の層の人たちが多く見に来て下さった事、改めて馬は特異な存在なのだと感じました。

—ご自身の中で、展覧会をはさんで、何か作品などに変化はありましたか?

馬という大動物を大学に連れ込み無事にパフォーマンスを終えて、まずはほっとしました。普



運命的な出会いと共生への想い
「鷹と出会って新しい目をもらった」

後藤 真理さん

絵画科日本画専攻 25期卒



— 鷹匠…今も生き続ける世界なんですね。後藤さんと希少な鷹匠を結びつけた経緯を教えてください。

名芸卒業後、ピンストライプというアメリカのカスタムアートを始めました。それがハーレー専門誌に紹介されアメリカで展覧会を、その繋がりでエアブリシアート専門店に勤めるようになりました。そこで飼われていたチゴハヤブサを可愛がっていたのですが、飼主も私も売ったお店の人までも猛禽類に全く無知だったために死なせてしまった。このことがきっかけです。私の後の行き方を大きく変えるほど後の後悔と自責の念に駆られた出来事でした。

— それで鷹匠に？

はい。三重県に諏訪流の鷹匠がいることを知り、訪ねたら名芸の日本画の同級生のお兄さんでした。そこから諏訪流放鷹術の道に。

— 運命的ですね。そこで資格を修得したのですね。

海外には鷹匠になるのに国家試験的なものがある国もあり、そこではしっかりした制度の中で修行を積むシステムが確立されていますが、日本の現状は資格も必要なく、鷹を買えばその日から鷹匠を名乗るという情けない現状です。私は幸運にも伝統ある鷹匠の文化に触ることができ、鷹に携わる心や技術を教えていただきました。現代日本では学ぶ人も稀な状況ですが、鷹に携わる上で大切なものは技術もちろんですが、心の部分だと

思っています。鷹を通して己を律する心と言いますか…。

— 鷹匠とは狩りをするイメージでしたが、文化的要素が強いですね。

昔は仕えた殿の鷹を作る役割、その為に狩場を保つのも鷹匠でした。どんな場所にどんな生き物が生き集まるか、必要とあれば木を植え水を引く。どんどん自然が消えていく現代では、鷹匠の環境を作る知識を生かせるし、むしろ必要と思います。これら歴史や伝統も習い、長い時間を経て現代まで続いていることを、自分の浅はかな行動で終わらせてはいけないという責任感を持ちました。そこが1番重要なことだと思っています。

— 鷹の魅力は？

私は鷹と出会って鷹に新しい目をもらったと思っています。鷹の視線で見れば実に多くの生き物が私たちの身近に共存している。彼らと生きていける環境を愛しく大切に思うようになりました。猛禽類は食物ピラミッドの頂点にいる肉食鳥、一般的には攻撃的、獰猛だと思われていますが実際は逆で臆病、繊細、神経質そして孤独を愛する生き物です。ストレスに滅法弱く、また自分の弱さを隠し最後まで虚勢を張つても強くあろうとする。何年相棒として寄り添っても「鷹と私は交わる事はない」と超えられない壁を感じます。鷹は生まれつき鷹ではなく、鷹になっていく。そんな姿を尊重し、領域



「師匠、狩りのお時間です」



星海社「毎日4コマ。ツイ4」にて連載中

<http://sai-zen-sen.jp/comics/twi4/shisho/>

を侵すことなく同じ目線を持って共に生きることが本分と思っています。

— なんでも人間を中心に考えがちですが、もっと大きな世界で謙虚に生きると深が見えてきますね。最後に後藤さんの近況をご紹介ください。

鷹から学んだ事を漫画にするという機会を与えて貰いまして、星海社から「ごまきち」というペンネームで「師匠、狩りのお時間です」という漫画を執筆させていただいている。

野生動物の命運を握っているのは人間ですが、その人間が彼らに無関心ではいつか彼らは滅びてしまう。それは必ず人間にも影響します。この先も鷹をはじめとした動植物と共生できる国であって欲しく、その基礎を作ることに尽力したいです。それを絵をかけるという武器を与えられている自分ができる手段でお伝えできればと願っています。

また愛知県の鷹匠の歴史を講演したり、害鳥の追い払い、もちろん獵期には狩りをしています。

— ありがとうございました。後藤さんの活躍を通じ鷹匠の役割が次世代に繋がっていくことを心より願っています。



月に一度役員会会議が行われる同窓会室。

(この部屋ができる時以来)数十年間使用されてきたカーテンや絨毯を、この度リニューアルしました。

美術・デザイン同窓会が一般社団法人としてスタートしました。

名古屋芸術大学を卒業された同窓生の皆様、各方面で御活躍の事とお喜び申し上げます。

母校である名古屋芸術大学は1970年の開校から建学46年を迎えます。本校同窓会は、入学時に御預かりする同窓会費をもって卒業と同時に終身会員となり、美術・デザイン同窓会会員も8千人を超えるほどに成長いたしました。

同窓会の組織として歴代の同窓会会长の尽力と皆様の御協力をもって今まで運営してまいりました。これからも皆様に貢献できる同窓会を目指して、運営をよりスマートに行い、会員の皆様の親睦・交流を深めこの組織を一層磐石にする為、昨年の総会で皆様の御承認を頂いた上で、法人格への移行を進めてまいりました。

この度8月3日付で「一般社団法人名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会」として発足する運びとなりました。これからは、社会的信用と責任を担い、母校の発展と繁栄を図り、透明性の高い公正な組織として皆様の期待に応えられる様、努めて行く所存です。今後とも御指導、御支援を賜ります様、お願い申し上げます。

また、今回の法人化移行に伴い皆様にお

願いがございます。一人でも多くの卒業生の皆様に御出席いただける様、毎年、同窓会の案内状を送付しております。当案内状は、住所が判明している全ての卒業生の方々に送付しているのですが、御手元に届いていない方もいらっしゃると思います。同窓生、先輩、後輩の方と連絡を取り交わす際に、是非、同窓会総会・懇親会への御出席を促して頂ければ幸いです。また、大変御手数ですが、現住所を同窓会アドレス(nua.ad.aa@gmail.com)宛てへ、ご連絡頂きます様、重ねてお願い申し上げます。

会長 中島弘敬

国税庁より届いた「法人番号指定通知書」
法人番号などが記載されている。

法人番号(13桁)	41180000016887
商 号	一般社団法人名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会
法人番号の取得年月日	平成28年8月10日
登録済みの住所	愛知県名古屋市昭和区鶴舞西65番地名古屋芸術大学西キャンパス内
登録済みの郵便番号	466-0003
登録済みの電話番号	052-771-1408
登録済みの電子メールアドレス	nua.ad.aa@gmail.com
登録済みのURL	http://nua-adaa.com

作品展に於ける後援に

作品展の同窓会からの後援について規約が変更され、皆様からお問い合わせをいただくことが多くなりました。

後援費用を含む名義後援にご応募くださる方が年々増えてきたこともあり、展覧会数の制限を行うことになりました。条件として初個展の方を優先して後援させていただき、これまで過去3年以内に後援を受けられた方は何卒ご遠慮くださいますようお願い致します。また名義だけの後援もございます。どうぞご利用ください。

変更された規約を記しますので再度お読みください、条件に沿ってご応募ください。

後援規約――

- 資格 名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会で会費を納めたもの。
- 後援金 同窓生の個展(過去同窓会から後援を受けた経験のない方を対象とする)1回に2万円とする。
- 手続き イ)会期3ヶ月前までに後援依頼(様式1)を提出し同窓会の審査を受ける。
ロ)作品展終了後1ヶ月以内に、ダイレクトメール(展覧会案内状)会場(作品)写真数点を添え、報告書(様式2)を提出する。※お

様式1

後援依頼書

申込日付

名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会
会長 中島 弘敬 殿

第〇〇期〇〇学部〇〇科〇〇コース・領域
氏名〇〇〇〇〇 印

下記の通り作品展(個展)を開催いたします。後援をお願いします。

どちらかに○
□名義後援
□後援費用(2万円)を含む名義後援

(1) 展覧会の名称(例:名芸花子個展)

(2) 開催する場所(ギャラリー名などまたその住所と連絡先)

(3) 会期

(4) 申請者連絡先(現住所、電話番号、メールアドレスなど)

二二六

送り下さった案内状及び写真は保管するためご返却できません。

4、後援名の明記 作品展の案内状や看板等に、後援名「名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会」を明記する。

5、再振込の手数料ご本人負担について
報告書に記された振込先に間違いがあった場合は、2万円から振込組戻し手数料(864円税込)と、再度振込時の手数料(三菱東京UFJ銀行宛324円・他行宛648円)を差し引いた金額を、後援金として入金させていただきます。

6. 問い合わせ・送付先

名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会 事務局宛

〒481-8535

愛知県北名古屋市徳重西沼65

tel. 0568-24-0325(大学代表)

tel/fax. 0568-25-4190(直通)

同窓会ホームページには「後援規約」及び、
実際に依頼していただく際に必要な書類「後
援依頼(様式1)」と事後「報告書(様式2)」
のデータ(全てPDF)がダウンロードできま
す。ご活用ください。

樣式 2

報告書

報告日付

名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会
会長 中島 弘敬 殿

第〇〇期〇〇学部〇〇科〇〇コース・領域
氏名〇〇〇〇〇印

下記の通り作品展(個展)を開催いたしましたので、
ご報告します。

どちらかに○
□名義後援
□後援費用(2万円)を含む名義後援

- (1) 展覧会の名称(例:名芸花子個展)
 - (2) 開催する場所(ギャラリー名などまたその住所と連絡先)
 - (3) 会期
 - (4) 申請者連絡先(現住所、電話番号、メールアドレスなど)
 - (5) 入場者数○○名
 - (6) 展覧会の案内状及び会場(作品)写真

- 後援金の振込先／銀行名、支店名、名義(フリガナ)、口座の種類、口座番号

美術・デザイン・音楽各学部は
2017年1学部1学科※となり、新しく
芸術教養領域 リベラルアーツコース、
文芸・ライティングコース(デザイン領域)の
2コースが誕生します。



東キャンパスに設けられた「芸術教養領域リベラルアーツコース インフォメーションセンター」

「BORDERLESS—2017年4月、名古屋芸術大学が変わる。」というコピーとともに流れてきたCMを観た方もいらっしゃると思います。来年度より名古屋芸術大学はこれまでの3学部、美術・デザイン・音楽各学部から、「**芸術学部芸術学科**」1コースに改編を進めています。(※人間発達学部はこれまで通り)

その中で、新しく設立される芸術教養領域に「リベラルアーツコース」、デザイン領域には「文芸・ライティングコース」が生まれます。

■文芸・ライティングコース

「文章で飯を食う！」が基本コンセプトです。高い文章スキルを持った第一線での実践者が、一人一人の学生の個性に合わせて（少人数制）、小説（ライトノベル）・演劇（戯曲）・映画（シナリオ）・キャッチコピー・絵本（児童文学）・マンガ原作などのテクニックをお教えします。書き上げた作品を編集して、本・雑誌の形でレビュー展に展示できるのは、デザイン領域だからこそです。

すでに今年度にスタートを切ったデザイン領域の新コース「カーデザインコース」

■藝術教養領域リベラルアーツコース

「音楽は好きだけどミュージシャンになろうとは思わない。アートに興味津々だけど、芸術家を目指しているわけじゃない。自分で創るというより、いろんな素晴らしい芸術にふれ、聴いたり観たりしながら、自分の世界を深めるのが好き。」そんな志向の学生さんに向けて開かれたコース、それがリベラルアーツコースです。リベラルアーツとは「教養」を意味し、現代社会において広く活躍できる知見と技術、思考力を備えたジェネラリストを育成する、時代が求める学びの領域です

「BORDERLESS」と銘打って、大胆な改編の進む名古屋芸術大学にどうぞご期待ください。 →新しいコースや領域の詳しい説明は大学ホームページにございま
す。[→ 詳しく見る](#)

